

時代は変わっても、このつながりを継続していきたい

# 西牛っ子安全見守り隊



子どもの成長を見守りながら  
築くやさしい信頼関係

西牛谷小学校の下校中に交わされる、見守り隊と子どもたちとの会話。ここでは、無理なく自分のことを行って築かれる地域との信頼関係がありました。



見守り隊の皆さんは、下校時間に合わせて小学校に行き、一緒に下校しながら子どもたちを見守っています。これは平成25年度に第9地区のコミュニティ・エリア9の活動の1環として始まりました。「義務と考えず、自分のできる範囲で長く続けよう」という合言葉の下、メンバーの自主性を尊重して無理のない範囲で活動できるように、柔軟な対応をしています。

活動を続けていくうちに、次第に心を開いてくれる子どもたちと交わす会話は、見守り活動を楽しみ時間になっているそうです。6年間一緒に下校することで子どもたちとの間に絆が生まれ、卒業後も顔を合わせればあいさつし合えるような信頼関係が地域で築かれています。細く長く活動を継続することが、このような小さな信頼関係を少しずつ地域に広げる大きな一歩になっていきます。

おじちゃん、おばちゃん！  
いつも見守りしてくれて  
ありがとう！



子どもの笑顔が  
私たちの生きる力になる



私たちが西牛っ子見守り隊です！  
子どもたちは地域の宝なので、  
これからも大切に支えていきます



西牛谷小学校  
校長 太田一茂さん

地域の優しさに包まれ  
成長する西牛っ子

雨の日も雪の日も、安全に帰れるように子どもたちに寄り添って見守り活動を行っていると感じた時は、感謝の気持ちでいっぱいになりました。各学年で下校の時間が違うため、1日に2度も子どもたちと一緒に帰ってもらうことは、体力的にも大変かと思えます。それでも、笑顔で対応していただけることには感謝を受けています。

子どもたちが、見守り隊の皆さんと楽しそうに話しながら帰る光景を見ると、学校活動は地域の人たちによって支えられているのだと実感します。

## 西牛っ子安全見守り隊 メンバーの声

無理なく自分のできる範囲で  
やるのが継続の秘訣



渡邊保さん (72歳、西牛谷)

90歳のメンバーも自宅の前で椅子に座って見守りに参加していますよ。自分のできる範囲で無理なくやるのが継続の秘訣だと思います。

西牛谷小学校から子どもたちと一緒に歩くことは、私たちにとっても良い運動になっています。孫世代の子どもたちとおしゃべりしながら歩く時間は、少し童心に帰ったような気持ちになれる楽しい時間ですね。

## 西牛谷小学校 保護者の声

保護者の代わりとして  
支えてくれることに感謝



橋本大介さん (43歳、西牛谷)

通学路には、道幅が狭く交通量がある危ない箇所が多くあります。私たちが見守り活動をできたらいいのですが、保護者の多くは共働きなので、難しいのが現状です。

見守り隊の皆さんが私たちに代わって、毎日子どもたちの見守りをしてもらえることはとても助かります。また、この活動は交通事故だけでなく犯罪の抑止力にもなっているので本当に感謝しています。